

科目名	言語発達障害学			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間 1 単位	必修・選択	必修	担当学年 時期	1年 後期
【授業の目的・ねらい】 国家試験に出題される検査のうち、小児分野で実施される発達検査および言語系検査について理解し実践することができるようになる							
【実務者経験】 言語聴覚士として成人分野では八家病院で回復期病棟、長久病院で急性期病棟の脳血管障害に係る言語聴覚療法に従事経験。その後、こども発達サポートセンター、野間こどもクリニックなどに勤務。発達障害児の言語聴覚療法に従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 小児分野でSTが実施する検査について学び、検査演習を行う（マニュアルの理解、検査結果の処理、検査結果の解釈含む）							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 上記各検査の内容を理解し、教員の指定した主要な検査項目について実施することができる							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	絵画語い発達検査(PVT-R)の概要について理解することができる						
2	質問-応答関係検査の概要について理解することができる						
3	Reading-Testの概要について理解することができる						
4	STRAW-R 標準読み書きスクリーニング検査の概要について理解することができる						
5	S-S法 国リハ式 言語発達遅滞検査の概要について理解することができる						
6	S-S法の実施手順について理解することができる						
7	S-S法のサマリー記入方法、解釈について理解することができる						
8	FOSCOM 対人コミュニケーション行動観察フォーマットの概要について理解することができる						
9	SCTAW 抽象語理解力検査の概要について理解することができる						
10	CHEDY 保育者のための発達障害チェックリストの概要について理解することができる						
11	ADHD,ASD等のスクリーニング検査やチェックリストについて知る						
12	構文検査 小児版について概要を理解することができる						
13	インリアル・アプローチの理論・技法について知る						
14	授業のまとめ						
15	試験対策						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚障害学 言語発達障害学』各検査道具・検査用紙および検査マニュアル							
【準備学習・時間外学習】 授業内で学習した検査の概要について復習・検査手技の確認							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。							